

【概要版】

平成29年度奈義町財務書類4表（一般会計等）

※普通会計ベース

奈義町では平成28年度決算より、「統一的な基準」に基づく財務書類の作成・公表を行っています。

財務書類4表は①貸借対照表、②行政コスト計算書、③純資産変動計算書、④資金収支計算書で構成されており、4つの表は以下のような相関関係にあります。

この4表は、民間企業でいう①貸借対照表、②損益計算書、③株式資本等変動計算書、④キャッシュフロー計算書にあたるものですが、民間企業と行政とでは事業目的が異なるため、それぞれを完全には比較できません。

財務書類は、現在の現金主義の決算書を補完するものとして、4表の作成・公表をしています。

① 貸借対照表

町がサービスを提供するために保有している資産とその資産がどのような財源で構成されているかを表すものです。奈義町の一般会計等（普通会計）の資産合計は約13億5千277百万円、将来世代の負担が約4億2千990百万円、今までの世代の負担で形成された資産は約9億2千377百万円ということがわかります。

② 行政コスト計算書

1年間の行政活動のうち、資産形成に結びつかない行政サービスに係る費用を表したものです。

社会保障費などの移転支的コストが約1億6千380百万円、次いで物件費などの物にかかるコストが約1億6千310百万円、人件費が約7億8千500百万円と続きます。

③ 純資産変動計算書

貸借対照表の純資産の部が1年間の活動でどのように増減したかを表すものです。今年度は28年度末の残高約9億3千777百万円に対し、1億4千990百万円減の9億2千377百万円となりました。

④ 資金収支計算書

1年間の現金の動きを3つに区分したものです。人件費・物件費・社会保障費といった支出とそれに対する収入との差の業務活動収支は、約2億7千100百万円で、地方債償還などの財務活動収支は1億500百万円で黒字ですが、投資活動収支は△5億5千800百万円となっています。

投資活動収支の赤字を業務活動収支と財務活動収支の黒字が埋め合わせしきれず、1億8千200百万円の現金が減少しています。

① 貸借対照表

(単位: 百万円)

【資産の部】		【負債の部】	
○固定資産（庁舎等）	10,952	○負債（地方債等）	4,290
○流動資産（現金等）	2,575	【純資産の部】	
・うち現金預金	531	○純資産	9,237
資産合計	13,527	負債・純資産合計	13,527

② 行政コスト計算書

(単位: 百万円)

A【業務費用】	2,460
○人件費(職員給与等)	785
○物件費等(物件費、減価償却等)	1,631
○その他(支払利息等)	43
B【移転費用】	1,638
C【経常収益】	261
D 純経常行政コスト A+B-C	3,836
E【臨時損失】	86
F【臨時利益】	0
純行政コスト D+E-F	3,922

④ 資金収支計算書

(単位: 百万円)

【業務活動収支】	271
【投資活動収支】	△558
【財務活動収支】	105
本年度資金収支額	△182
前年度末資金残高	701
本年度末歳計外現金残高	12
本年度末現金預金残高	531

③ 純資産変動計算書

(単位: 百万円)

前年末純資産残高	9,377
-	
純行政コスト	3,922
+	
財源	3,786
+	
その他	1
=	
本年度末純資産残高	9,237